

公共施設再配置 町有地有効活用



の検討が進んでいます。



公共施設再配置・町有地有効活用の検討については、施設の利用面だけでなく、施設維持や更新に係る財政面の問題など、皆さんの生活に密接することから、ここまで町民の方を含めた中でさまざまな議論を重ね、その節々に本紙面や回覧などによって、お知らせさせていただきました。

本号では、これまでの過程を簡単に振り返りながら、現在の進捗状況をお知らせさせていただきます。



広報にのみや
28年9月号



広報にのみや
28年12月号



広報にのみや
29年3月号



広報にのみや
29年5月号(回覧)

■現状把握と課題抽出

- ・公共施設の老朽化、耐震性欠如
- ・人口減少に伴う財政状況の悪化 など

■「三原則」と「4つの基本方針」が前提 公共施設三原則

- ①新規整備は原則として行わない
- ②施設の更新(建替)は複合施設とする
- ③施設総量(総床面積)を縮減する

4つの基本方針

- ①将来を見据えた施設配置
- ②公共施設の多機能化と統廃合
- ③効率的・効果的な管理運営
- ④計画的な施設整備

■実施計画策定方針の策定

実行性のある実施計画の策定に向けた方針

- ・行政サービスを維持・向上させるための実施計画とする
- ・実施計画は町民参加により策定する
- ・公共施設の再配置の着実な推進に向けた目標設定と目標達成手法を検討する

総延床面積の削減目標

- ・対象施設 66施設・3町有地
- ・計画期間別の削減目標

計画期間	短期 (10年後)	中期 (40年後)	長期 (40年後～)
延床面積の削減目標	2%削減	30%削減	35%削減
更新・改修費の削減効果	40%削減		

■実施計画の策定(29年度中)

■シンボル事業を位置づけ

公共施設再配置・町有地有効活用事業のうち、次の3つの観点から事業全体を象徴して方向性を示せるような事業をシンボル事業として位置づけ、先行実施することとしました。

シンボル事業を選定する3つの観点

- ①町民サービス・利便性の向上が期待できること
- ②民間のノウハウや資金の活用が可能であること
- ③比較的短期間で事業効果をアピールできること

「シンボル事業」と位置づけた3事業

- ①東京大学果樹園跡地の交流拠点としての有効活用
- ②スポーツ施設の管理運営の効率化
- ③老朽化した施設の統廃合・複合化

※駅前町民会館など、早急に対処が必要な老朽化した施設については、利用者の活動場所を確保しながら、他施設への機能移転も含め廃止に向けた検討をしています。

■実施計画策定に向けた意見聴取

今後約50年間で今ある公共施設の延床面積を35%削減することになり、全町民の生活に直結することから、実施計画の策定方針に基づき、町民の皆さまのご意見を伺うために、次の取り組みを行いました。

①町民アンケート

②町民ワークショップ

結果は
次ページを！



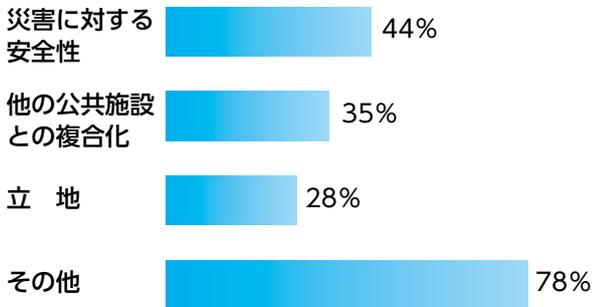


町民アンケート

目的 本計画に関する町民の意向を把握する。
対象 ①住民基本台帳から無作為に抽出した町民1,000人
 ②日常的に公共施設を使用している方々
 【配布数①②合計：1,266⇒回収数：534】

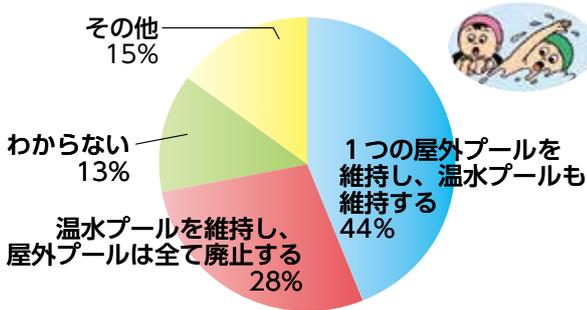
現在、方向性の検討をしている施設に関する設問など、アンケート結果の一部について紹介します。

設問 役場庁舎の耐震補強や建替えて重視すべき点 ※選択肢のうち2つを回答することになっています。



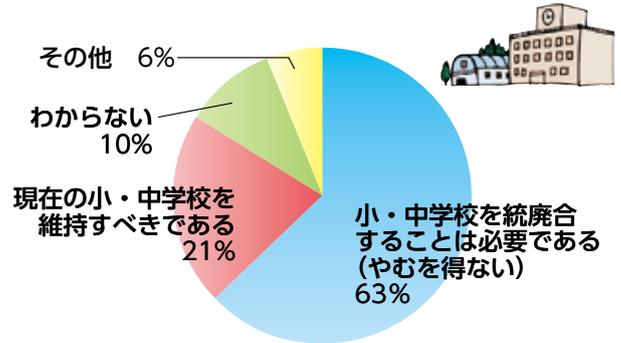
その他内訳(無回答除く)
 維持管理費23%、建設費21%、バリアフリー15%
 環境性能10%、小売店や飲食施設の出店4%、デザイン1%

設問 町営プール(温水・山西・袖が浦)のあり方



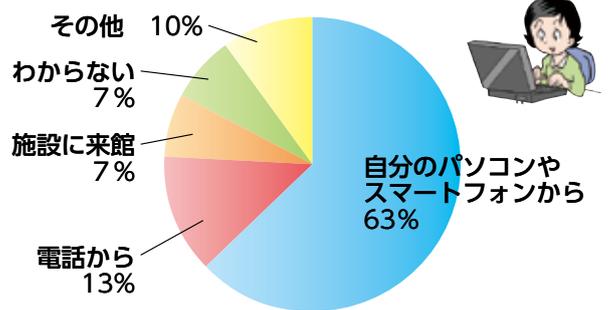
「温水プールを維持し、屋外プールを1つ以上廃止する」という回答が70%を超えています。

設問 小・中学校の統廃合について



統廃合した場合に、通学手段を確保するため、スクールバスを導入するといったご意見などがありました。

設問 施設の空き状況の確認や予約方法について



全ての年代において「パソコンやスマートフォンから」予約を行うというご意見が多数を占めました。



町民ワークショップ

平成29年度に全7回の開催

テーマ1・2：7/21(金)、9/2(土)、9/30(土)
 テーマ1：10/28(土)、11/11(土) テーマ2：10/14(土)、11/4(土)

テーマ1：東京大学果樹園跡地の活用を考えよう

本格活用を図るには、多くの町民に東京大学果樹園跡地の魅力を知ってもらう必要があるため、まずは場所について知ってもらえるような取り組みを推進し、場所の認知度を向上させることで土地が持つポテンシャルも上がっていきます。

参加者の間では、取り組みの内容について、東京大学という名前から連想した「学びの場」というコンセプトや、小さく始めて短いサイクルで検証を行っていく「アジャイル型」といった事業モデルなど、実践に結びつくような意見が多数交わされました。

テーマ2：公共施設の再配置・管理運営を考えよう

人口の減少に伴って必要な町民サービスの量も減ることが予測されるため、今ある公共施設をどのように配置し直すことが将来的な負担の軽減につながるのか、実施計画策定方針で設定した目標値である35%の削減を達成するため、施設の様々な組み合わせについて、シミュレーションゲームを通して、町の公共施設の将来像(ランドデザイン)を描きました。



アンケート結果などはホームページや町政資料閲覧コーナー(役場2階)で公開しています。



アンケートにご回答いただいた方
 ワークショップにご参加
 いただいた方

ご協力ありがとうございました!



企画政策課戦略推進班